

休日当番医など (5月1日～6月15日)

休日 当番医

※症状によっては、専門外となる場合もありますので、不明な場合は、当番医療機関にお問い合わせください。

日	当番医	時間	住所	電話番号
5月1日(日)	白井外科胃腸科医院	8時30分～12時	平下平窪	25-3788
	吉田整形外科医院		平研町	22-6030
	磐城中央病院附属診療所		小名浜南君ヶ塚町	53-3511
	榎田病院	9時～17時	植田町	63-3202
	こじま内科		遠野町	74-1500
3日(火)	はたの眼科		常磐関船町	42-2040
	ニュータウン腎・内科クリニック	9時～12時	中央台高久	46-0606
	小名浜生協病院		小名浜岡小名	53-4374
	こうじま慈愛病院	9時～17時	錦町	63-5141
	松崎内科		植田町	63-3358
4日(水)	ときわ会常磐病院		常磐上湯長谷町	43-4175
	石井脳神経外科眼科病院		小名浜林城	58-3121
	なこそ病院	9時～17時	勿来町	65-7755
	よこぎ内科胃腸科クリニック		勿来町	65-1111
	渡辺産科婦人科		常磐関船町	42-4567
5日(木)	かしま病院		鹿島町下蔵持	58-8010
	呉羽総合病院	9時～17時	錦町	63-2181
	佐藤マタニティークリニック		勿来町	65-6900
	常磐腎ひ尿器クリニック		常磐下船尾町	43-1200
	須田医院	8時30分～12時	小島町	27-6060
8日(日)	志賀整形外科・外科	9時～12時	平鍛冶町	23-5050
	永井整形外科		小名浜西君ヶ塚町	54-7722
	矢吹病院	9時～17時	佐糠町	63-1818
	いわき湯本病院		常磐湯本町	42-3188
	中央台たなか眼科	9時～14時	中央台高久	29-1722
15日(日)	山口医院		平作町	24-1811
	ふじい医院	9時～17時	泉町	56-2288
	榎田病院		植田町	63-3202
	かもめクリニック		草木台	28-1010
	新田目病院	10時～16時	平上荒川	28-1222
22日(日)	たかはしクリニック		平上荒川	46-1231
	たく整形外科医院	9時～17時	泉玉露	56-8833
	こうじま慈愛病院		錦町	63-5141
	春山医院		常磐下湯長谷町	44-4011
	白井外科胃腸科医院	8時30分～12時	平下平窪	25-3788
29日(日)	坂本整形外科医院		平豊間	38-2830
	すみたか内科クリニック	9時～17時	泉町滝尻	75-1560
	なこそ病院		勿来町	65-7755
	箱崎医院		常磐関船町	42-3131
	山内クリニック		平谷川瀬	25-8181
6月5日(日)	いずみ整形外科クリニック	9時～17時	泉町滝尻	56-3533
	呉羽総合病院		錦町	63-2181
	ときわ会常磐病院		常磐上湯長谷町	43-4175
	たかはしクリニック		平上荒川	46-1231
	中村病院	9時～17時	小名浜大原	53-3141
12日(日)	榎田病院		植田町	63-3202
	いわき湯本病院		常磐湯本町	42-3188

県子ども救急電話相談 ☎024-521-3790または#8000 (プッシュ回線・携帯電話) 毎日 19時～翌朝8時

※変更となる場合がありますので、事前に当番医療機関、または消防署 (☎23-0119) へお問い合わせください。市ホームページでも公開していますので、ご覧ください。

日曜 小児専門当番医 9時～12時

5月	1日	ながい小児科	平上荒川	28-2535
	8日	森のこどもクリニック	植田町	38-7227
	15日	むらまつ小児科	常磐関船町	72-0707
	22日	渡辺クリニック	平南町	25-1170
	29日	おおはらこどもクリニック	東田町	63-0001
6月	5日	こんない子供クリニック	小名浜小名	73-8815
	12日	福田小児科医院	平下荒川	22-4272

休日 診療協力医 ※休日当番医の場合は、左表に記載しています。

【内科・外科】	
山口医院 (平作町)	9時～17時 ☎24-1811
5月1日	6月5日
白井外科胃腸科医院 (平下平窪)	
8時30分～12時	☎25-3788
5月8日、15日、22日	
6月5日、12日	
たかはしクリニック (平上荒川)	
9時～17時	☎46-1231
5月8日、29日	6月5日
須田医院 (小島町)	
8時30分～12時	☎27-6060
5月15日、22日、29日	
6月12日	
志賀整形外科・外科 (平鍛冶町)	
9時～12時	☎23-5050
6月5日	
長谷川整形外科医院 (平五色町)	
8時30分～11時30分	☎25-5691
6月12日	

【泌尿器科】	
ときわ会常磐病院 (常磐上湯長谷町)	
9時～15時	☎43-4175
5月1日、4日・5日、8日、15日、22日、29日	
6月12日	
【精神科】	
新田目病院 (平上荒川)	
10時～16時	☎28-1222
5月1日、8日、15日、29日	
6月5日、12日	

【眼科】	
中央台たなか眼科 (中央台高久)	
9時～14時	☎29-1722
5月1日、8日、22日、29日	
6月5日、12日	

※このほかにも休日に診療している医療機関がありますので、あらかじめかかりつけの医療機関などで確かめてください。

休日救急歯科診療所	
(総合保健福祉センター内) ☎27-8620	
日曜日、祝日: 9時～12時、13時～16時	
(受付終了時間15時30分)	
休日夜間急病診療所	
(総合磐城共立病院内) ☎27-1208	
平日: 20時～24時 土曜日: 20時～翌朝7時	
日曜日: 13時～24時 祝日: 9時～24時	

●かかりつけ医をもぎまごしよう

●「レバニ」検査をやめよう

●救急車は適正に利用しよう

かかりつけ医の紹介・相談やこれまでの掲載内容は、医師会事務局へ (ホームページURL <http://www.iwaki.or.jp/>)

もうすぐ海やプールで泳げる季節がやってきました。しかし、海やプールの水には、アカントアメーバというミドリムシなどと同じ原生動物がいます。通常は人体に悪さはしません。コンタクトレンズを入れたまま水に入ると、角膜(くろめ)に感染して強い炎症を起こします。これをアカントアメーバ角膜炎といいます。

アカントアメーバ角膜炎の初期は激しい目の痛みが特徴的で、結膜(しろめ)の充血や涙を伴うことがあります。進行すると、角膜が白く濁ることで視力が著しく低下し、角膜移植手術が必要になることもあります。

アカントアメーバ角膜炎

また、コンタクトレンズの保存液や保存ケースの交換をしないと、アカントアメーバが増殖し、角膜に感染することもあります。水道水でコンタクトレンズを保存すると、時間の経過で消毒の効果が消え、アカントアメーバが増殖する可能性があります。コンタクトレンズは、毎日、洗浄液でこすり洗いしてから、新しい保存液を入れた清潔なケースで保存するようにしましょう。

この春から進学や就職で新しくコンタクトレンズの使用を始めた方、そろそろ一回目の定期検診の時期ではありませんか?

市民の

健康教室



提供・問い合わせ (一社)いわき市医師会 ☎27-7155

健康教室

消化器内科医療録②

B型慢性肝炎

B型肝炎ウイルスに感染することによって発症します。母子の間で感染し、慢性に経過することが多く、自然治癒するのにはわずかに二割に過ぎません。現在では重症に感染予防が行われており、新たな感染はありません。

いわき市では、国保特定健診、健康診査の受診と併せて検査ができるほか、健診の受診機会がない方は、保健所で検査することができます。血液感染でするので、入れ墨や性交渉で感染することもあります。ほとんどが急性肝炎で経過しますが、慢性に経過すると、肝硬変症、

肝がんに進展することがあります。慢性肝炎に進行すると、完全にウイルスを排除することは困難です。最近では、核酸アナログという薬を服用することでウイルスの増殖を抑え、肝硬変症、肝がんへの進展を予防できます。現在、服薬治療中の方は、自己判断で中止するとウイルスが増殖してしまうため、中断してはいけません。三十五歳以下の方は、インターフェロン治療を行うこともあります。いずれも治療費は高額なため補助制度があります。治療は専門医との連携が必要です。かかりつけ医、保健所などでご相談ください。

けんこうQ&A

Q 湿疹の特徴は?

A 乳児期では顔面などの赤いジュクジュクした発疹、幼児期からは首や肘・膝関節の内側の乾燥した湿疹が特徴的ですが、思春期以降は、上半身に湿疹が出るタイプや、全身に湿疹が広がる場合などさまざまです。治療方法とスキンケアのポイントは何ですか?

①保湿剤を冬場だけでなく通年で使用する、②洗い過ぎない(頻繁な手洗い)、③外用薬を一日二回塗布することです。治るまでに時間を要しますので、医師とよく相談しながら、根気強く治療を継続することが重要です。

皮膚科②

アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎とは? かゆみを伴う湿疹を慢性的に繰り返す皮膚病です。強いかゆみがあること、年齢によって特徴的な病変が返ること、症状が六カ月以上繰り返すこと(乳児では二カ月以上)、乳幼児期の経皮感作により、食事にアレルギーを引き起こして発疹、食事にアレルギーがあり、適切なスキンケアが重要な疾患です。

A 治療の基本となる三本柱は、①炎症を抑えるステロイドやタクロピムスの塗り薬と、かゆみを抑える抗ヒスタミン薬の飲み薬による治療、②洗浄や保湿、③患者のスキンケア(洗剤や保湿剤)を見つけて回避することです。なお、通常は湿疹が出たら薬を使うのが基本ですが、最近では、湿疹が出ていないときも一定の間隔でステロイドを使う「プロアクティブ療法」が注目されています。スキンケアで重要なポイントは、①保湿剤を冬場だけでなく通年で使用する、②洗い過ぎない(頻繁な手洗い)、③外用薬を一日二回塗布することです。